

東京都中央卸売市場における本県青果物の販売状況（令和7年11月実績）

＜野菜類＞

品目	茨城県産						【参考】市場計	
	入荷量 t	前年比 %	平年比 %	単価 円/kg	前年比 %	平年比 %	入荷量 t	単価 円/kg
れんこん	987	98.6	101.7	389	101.6	114.7	1,048	394
かんしょ	875	84.8	88.7	279	112.5	115.1	2,461	304
レタス	3,684	99.7	101.5	179	77.6	115.5	4,556	186
はくさい	11,526	82.6	89.4	63	82.5	123.9	14,980	66
ピーマン	729	81.4	70.4	676	95.8	147.1	1,407	696

※出典：都中央実績（平年比は直近5年間の平均値から算出（果実類・花きも同じ））

- れんこんは、高温による形状の乱れ等が見られたものの、入荷量はほぼ前年及び平年並みとなった。価格はほぼ前年並み、平年を1割以上上回った。
- かんしょは、「紅優甘(べにはるか)」を中心の入荷で前年及び平年を1割以上下回る入荷量となった。価格は堅調な動きとなり前年及び平年を1割以上上回る結果となった。
- レタスは、ほぼ前年、平年並みの入荷となった。後続の西南産地からの入荷が低温と干ばつにより若干遅れ気味で端境となり、価格は大幅な高値で推移した前年を2割以上下回ったものの平年を1割以上上回った。
- はくさいは、長野県が終盤となり本県のピークに入った。高温・干ばつにより定植が遅れたため前年、平年を1割以上下回る入荷量となった。価格は高騰前年を2割近く下回ったものの、平年を2割以上上回った。
- ピーマンは、曇天と急な気温低下の影響により果実肥大が鈍化していることに加え、切り上りが早まっており入荷量は前年を2割弱、平年を3割弱下回った。相場は高値で推移した前年をやや下回ったものの、平年を4割以上上回った。

＜果実類＞

品目	茨城県産						【参考】市場計	
	入荷量 t	前年比 %	平年比 %	単価 円/kg	前年比 %	平年比 %	入荷量 t	単価 円/kg
いちご類	39	56.3	54.7	2,547	108.0	121.8	432	2,579

- いちご類は、栃木を中心に静岡・茨城・福岡などから入荷。高温の影響から花芽形成が遅延したものの、その後の生育は順調に推移。本県産の入荷量は、10月の曇天の影響もあり前年、平年比ともに大幅に下回った。不足感から業務向け規格の引き合いが強く、単価は高値となった前年並みで、平年を上回った。

＜花き＞

品目	茨城県産						【参考】市場計	
	入荷量 千本	前年比 %	平年比 %	単価 円/本	前年比 %	平年比 %	入荷量 千本	単価 円/kg
フリージア	70	113.0	59.7	76	96.8	126.1	77	74

- フリージアは、黄色品種を中心に本県産の入荷が開始。産地では球根の状態や入荷遅れが改善し、生育も概ね良好であった。入荷量は、数量減となった前年よりも増加、平年比では引き続き減少となった。単価は、前年並みで平年を上回った。